



1. ベトナム南米山学友会が誕生！海外 10 番目

ベトナム南部、ホーチミン市を中心とする「ベトナム南米山学友会」が5月9日の常務理事会にて正式に承認され、海外 10 番目となる米山学友会が誕生しました。創立会員は 28 人、初代会長はホーライフーンさん（1973-75／桐生西 R C）、副会長をタイヴァンナムさん（2007-11／千里 R C）が務め、その他 1 人の会計、2 人の監事、7 人の理事、計 12 人の役員で運営されます。



ホーライフーン会長は「5月9日はわれわれにとって記念すべき日となりました。これから皆で一層団結し、世

の中、人々のため、頑張ってやっていきたい」と、意気込みを語りました。

ホーチミンでは 2014 年から米山学友がグループを形成し、児童・障害者・高齢者のための福祉施設への慰問などさまざまな奉仕活動の実績があり、今後さらなる活躍が期待されます。

2. 寄付金速報 — 今年度も残り 1 カ月半 —

前年同期比

+ 5.9%

普 - 1.1% 特 + 9.6%

4 月までの寄付金は前年同期と比べて 5.9% 増（普通寄付金: 1.1% 減、特別寄付金: 9.6% 増）、約 6,960 万円の増加となりました。送金が遅れてい

た普通寄付金の納入も回復し、2,088 のクラブからご送金いただきました。また特別寄付金も創立記念寄付として 17 クラブから合計 270 万円という多額のご寄付をいただき、厚く御礼申し上げます。今年度も残すところ 1 カ月半となりました。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

3. 米山学友が中心となった衛星クラブが誕生

第 2680 地区（兵庫県）で米山学友を中心とする衛星クラブ、宝塚ユニバースロータリー衛星クラブ（スポンサークラブ：宝塚 R C）が 3 月 6 日付で認証を受け、正式に誕生しました。衛星クラブとは既存のクラブの中に作られるクラブで、8 人の会員で結成が可能です。衛星ク

ラブ会員はスポンサークラブの正会員ですが、独立して例会を開き、細則や理事会も独自のものとなります。

同衛星クラブは 10 人の創立会員のうち 8 人が米山学友で、^{バクカキ}麦嘉輝さん（2017-18／尼崎西 R C）が初代議長。毎月第 1・第 3 火曜日の 19 時からオンラインで例会を開催します。

麦さんは、「クラブ名の『ユニバース』には『全世界、全人類』という意味を込めました。この多国籍な米山学友が集まったクラブの多様性を生かし、多くの仲間を集め、自由に討論を重ね、ともに世界や地域社会のための奉仕活動を積極的にしていきたいです。これから有志の仲間を増やして活発に活動していきます」と、意気込みを語りました。



4. さいたま大空RCが創立10周年！

米山学友と財団学友によって設立されたロータリークラブ、さいたま大空RC（第2770地区）の創立10周年記念式典が4月22日、さいたま市内で開催され、創立当時のガバナー・渡邊和良氏のほか、恵川一成特別代表、クラブの成長を見守ってきた歴代ガバナーや地区米山関係者などロータリアン、学友ら約90人が祝福にかけつけました。

同クラブは2013年に設立され、創立会員全員が財団学友と米山学友という特色あるクラブです。15年度からは毎年欠かさず海外への教育支援、医療支援を実施しており、今年度はインドネシア・キルギス・モン



ゴルを対象に国際奉仕活動を行いました。

今回の式典は駅に隣接した商業施設内広場で行われ、クラブ名に象徴されるように、見上げれば大空が広がる会場での開催となりました。はじめに記念講演として、公益財団法人埼

玉県国際交流協会の職員2人と、大宮シティRC会員の谷垣智之弁護士が登壇。続いて、クラブ会長のチャンコントゥアンさん（2008-10／幸手RC）の開会点鐘、来賓祝辞、拡大特別委員長と特別代表への感謝状贈呈、ロータリー財団と米山奨学会への寄付金がそれぞれの部門委員長へ手渡されました。同クラブがこれまで

行ってきた国際奉仕活動の検証ビデオでは、現地から感謝の声が次々と届けられ、約10年間にわたる貢献の喜びを共に噛みしめました。

10周年記念事業として^{ゲン} 潔^{ケツ}実行委員長（2016-18／川口モーニングRC）から「モンゴル全国規模図書室設立

プロジェクト」が発表されると参加者から拍手喝采が沸き、オンラインで参加していたモンゴル米山学友会のナサンバヤル ボロルマー直前会長（2011-12／矢板RC）が代表して感謝を述べました。

5. 新奨学生の抱負「米山奨学生の名に恥じぬよう」

4月から新年度が始まり、新規奨学生として採用された648人の米山奨学生が全国各地で新たなスタートを切りました。多くの世話クラブが新規奨学生を迎え、カウンセラーとの対面、オリエンテーションや例会の参加などで奨学生が歓迎を受ける中、新たな環境で挑戦が始まる米山奨学生、韓国出身の韓熙那さん（2023-25／和歌山アゼリアRC）に意気込みと、これからの抱負をお伺いしました。



【韓熙那さん】

4月に初めて和歌山アゼリアロータリークラブの例会に参加させていただきました。毎週のように

例会で集まり、さまざまな奉仕活動が行われていることを目の当たりにし、とても素敵だと感じました。参加する前は何を話せばいいのか少し不安でしたが、ロータリアンの方々から気さくに話題を振ってくださり、リラックスしてコミュニケーションをすることができました。おかげで、親睦を深めることができ、とてもほっとしています。

これから積極的にクラブ行事などに参加し、日本についてさらに理解を深めていきたいです。米山奨学生の名に恥じぬよう、学業にも全力を尽くしてまいります。私がこうして学業に専念できることは、皆さまからのご支援があってこそ、という感謝の気持ちを忘れず、多くの方の役に立てる人材になれるよう努力してまいります！